



2018年3月期 第2四半期決算説明会

2017年11月15日

ユニチカ株式会社

1. 2018年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析(予想修正後)
- ・セグメント別業績予想
- ・3つのGの実現~“Growth”に向けた主施策と“Global”展開

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

1. 2018年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析(修正後)
- ・セグメント別業績予想
- ・3つのGの実現~“Growth”に向けた主施策と“Global”展開

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

業績の概要

主力のフィルム事業が好調に推移したことなどが影響し、増収。

原燃料価格の上昇などによるマイナス影響を受け、減益。

外貨建て資産の為替影響の改善や支払利息の減少などにより、営業外損益はプラスに影響。

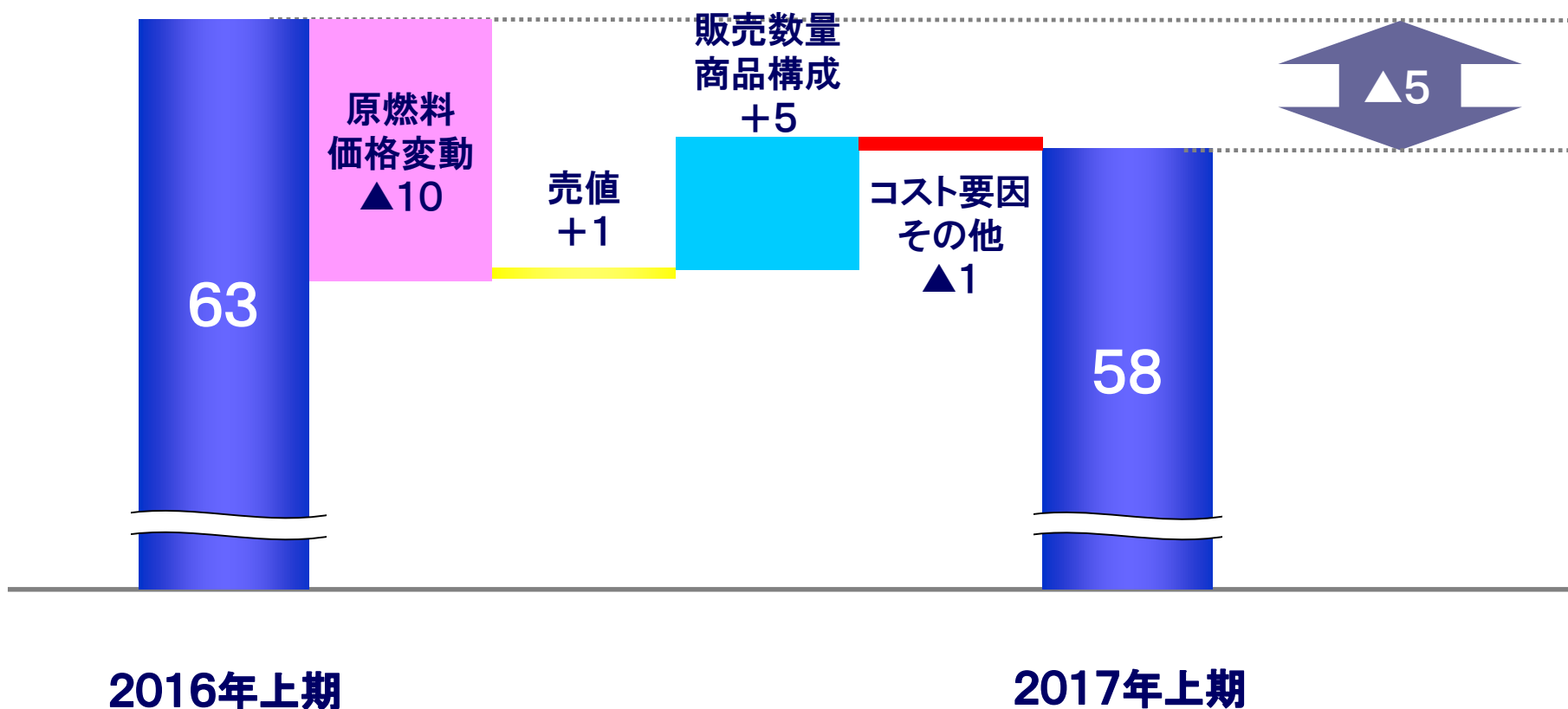
連結会計制度の導入以来、上期の純利益としては、最高益を更新。

連結合計 (金額単位:億円)	16年上期 実績	17年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	626	631	+5	+1%
営業利益	63	58	▲5	▲8%
営業利益率	10.0%	9.2%	(▲0.8%)	—
営業外収益	5	6	+1	—
営業外費用	26	11	▲16	—
経常利益	41	53	+12	+29%
特別利益	2	4	+2	—
特別損失	3	2	▲1	—
税金等調整前四半期純利益	40	55	+15	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	36	48	+12	+33%

減価償却費	21	22	+1	+5%
設備投資	28	22	▲6	▲22%

営業利益変動要因分析

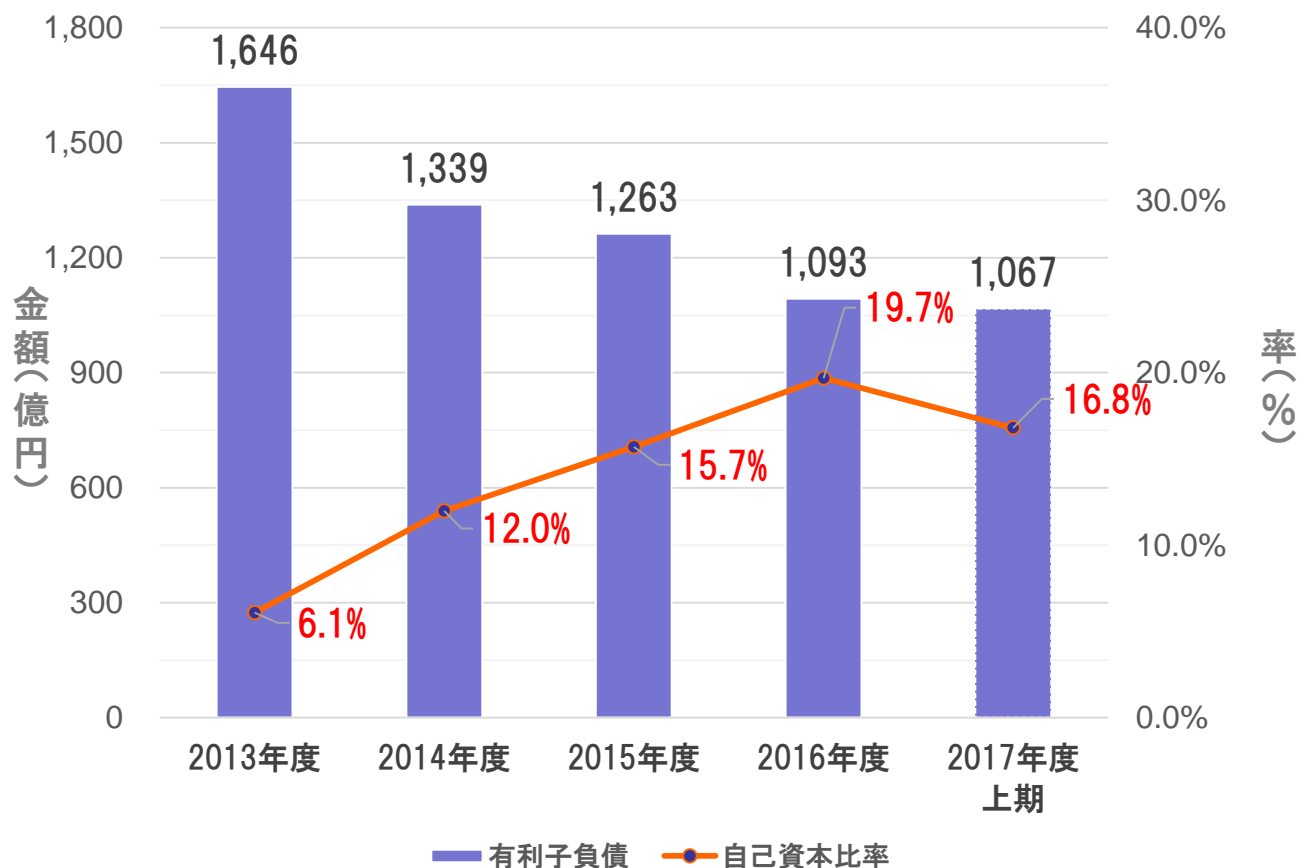
(金額単位: 億円)



資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2017年3月末	2017年9月末	増減
資産合計	2,119	1,994	▲125
流動資産	1,016	892	▲124
固定資産	1,103	1,102	▲0
負債合計	1,666	1,625	▲41
純資産合計	453	369	▲83
株主資本	406	324	▲82
その他の包括利益累計額	13	12	▲1
非支配株主持分	34	34	▲1
有利子負債	1,093	1,067	▲27
自己資本比率	19.7%	16.8%	▲2.9%

有利子負債、自己資本比率の推移



財務体質の健全化

■有利子負債削減

2016年度で残高1,093億円。2017年上期で1,067億円となり、着実に改善している。現預金を差し引いたネット有利子負債は832億円。

■自己資本比率

C種種類株式を6月末に償還したため、2017年上期は2016年度と比較して2.9ポイント減少し16.8%となった。

1. 2018年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析(修正後)
- ・セグメント別業績予想
- ・3つのGの実現~“Growth”に向けた主施策と“Global”展開

補足資料

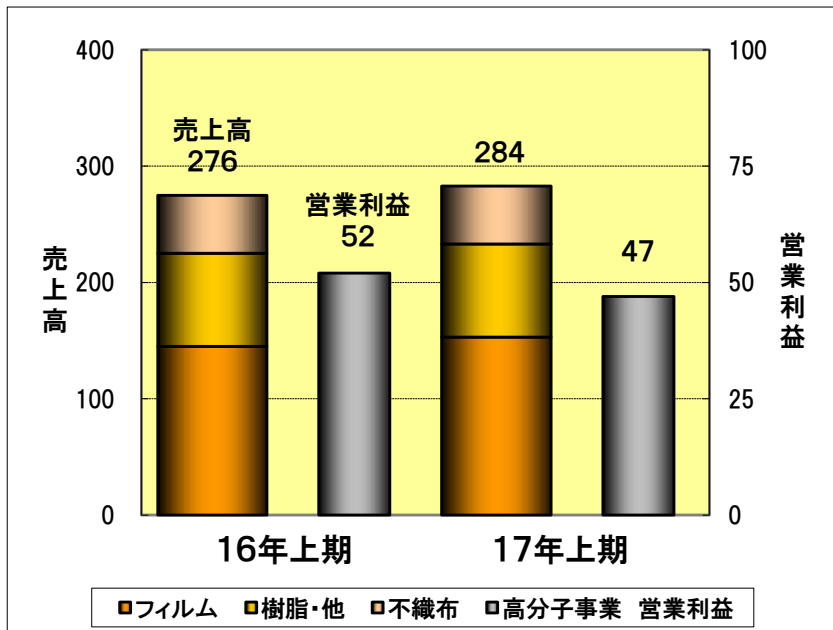
- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

セグメント別 業績の概要

セグメント別 (金額単位:億円)	16年上期 実績	17年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	626	631	+5	+1%
高分子事業	276	284	+8	+3%
機能材事業	59	62	+2	+4%
繊維事業	274	266	▲8	▲3%
その他	17	19	+2	+14%
営業利益	63	58	▲5	▲8%
高分子事業	52	47	▲5	▲10%
機能材事業	6	6	+1	+14%
繊維事業	8	6	▲2	▲20%
その他	▲3	▲2	+1	—

フィルム事業が好調も、原燃料価格の上昇などにより、減益

(金額単位:億円)	16年上期	17年上期	増減
高分子事業 売上高	276	284	+8
フィルム	145	153	+8
樹脂・他	80	80	+0
不織布	50	50	+0
高分子事業 営業利益	52	47	▲5



□フィルム 〔増収・減益〕

◆ 包装分野

コンビニ商品向けなどの需要が増加。海外でも、アジア市況の好調を背景に、インドネシア子会社の生産量を拡大し、販売数量が増加。バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」も収益増加に貢献。

◆ 工業分野

半導体用途など電気・電子機器分野の需要が好調。耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」やシリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」などの高付加価値品の販売も堅調に推移。

□樹脂 〔増収・減益〕

※その他を含めると売上横ばい

◆ ナイロン樹脂

競争激化の中、収益が減少。

◆ 飽和共重合ポリエステル樹脂「エリーテル」、
環境配慮型水性エマルジョン「アローベース」

太陽電池用途などで需要が減少。

◆ ポリアリレート樹脂「Uポリマー」

情報端末機器用途や海外向け自動車用途で好調に推移。

□不織布 〔売上横ばい・減益〕

◆ ポリエステルスパンボンド

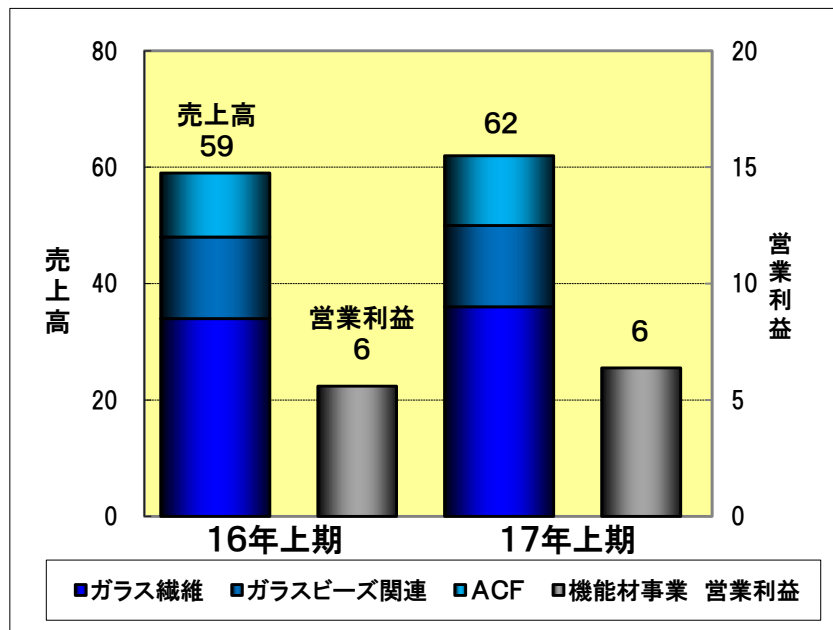
農業用途やインテリア関連分野などで堅調、土木や建築材料用途などで低調に推移。

◆ コットンスパンレース

国内のスキンケア用品など生活資材用途で引き続き好調に推移し、輸出も増加。

ガラス繊維は、電子材料分野で需要が回復

(金額単位:億円)	16年上期	17年上期	増減
機能材事業 売上高	59	62	+2
ガラス繊維	34	36	+2
ガラスビーズ関連	14	14	▲0
ACF	11	12	+1
機能材事業 営業利益	6	6	+1



□機能材 〔増収・増益〕

◆ ガラス繊維・産業資材分野
建築土木用途の販売が低調も、環境関連用途は堅調に推移。

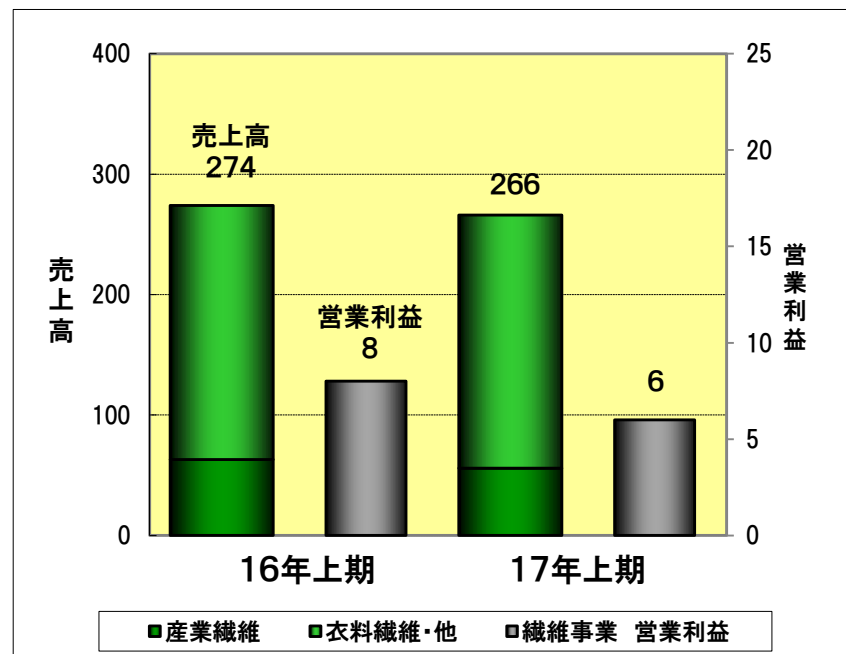
◆ ガラス繊維・電子材料分野
ICクロスは、情報端末機器用途での需要が回復し、超薄物タイプなど高付加価値品の販売が増加。

◆ ガラスビーズ
自動車部品用途や電子部品用途で売上が増加し、ロードマーキング用途や反射材用途も堅調に推移したが、ユーティリティコストの上昇などの影響を受けた。

◆ 活性炭繊維(ACF)
主力の浄水器用途で需要が回復し、自動車向けVOC除去フィルターや工業用フィルター用途は前期に引き続き堅調に推移。

産業繊維は、構造改革の実施により、事業規模が縮小

(金額単位:億円)	16年上期	17年上期	増減
繊維事業 売上高	274	266	▲8
産業繊維	63	56	▲7
衣料繊維・他	211	210	▲0
繊維事業 営業利益	8	6	▲2



□ 繊維 〔減収・減益〕

◆ 産業繊維

構造改革の実施により事業規模が縮小。ポリエステル短繊維は、複合繊維などの高付加価値品の販売が堅調に推移、前年同期並みの売上を確保。

ポリエステル高強力糸は、建築資材用途などで低調に推移し売上が減少したが、高付加価値品の販売は伸張し、計画通りの収益を確保。

◆ 衣料繊維

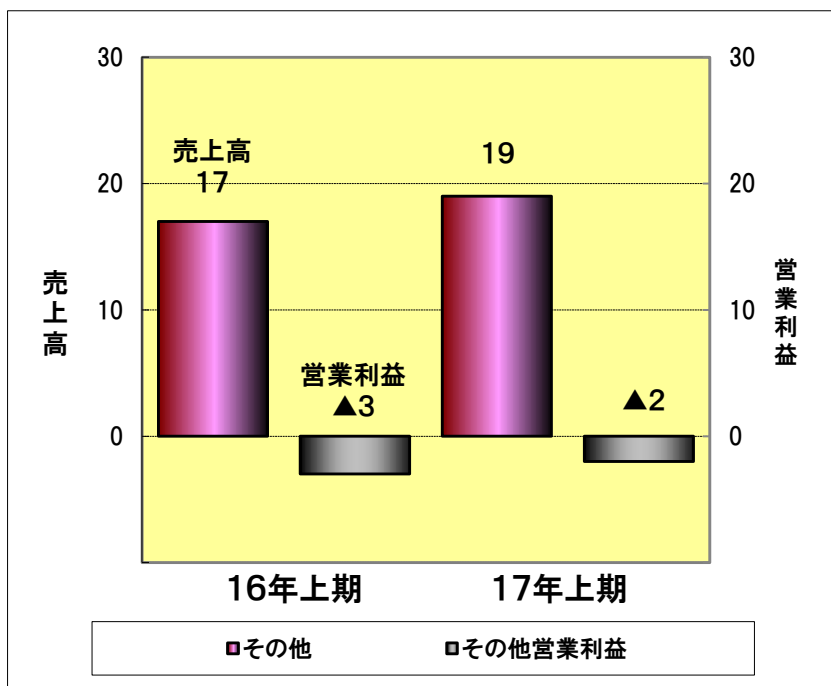
ユニフォーム分野は、ワーキング用途を中心に好調に推移。

レディス分野や寝装分野での需要が低迷し、売上は減少。

海外では、デニムの需要が回復し、好調に推移。

耐火スクリーンの是正工事の進捗により、営業赤字が縮小

(金額単位:億円)	16年上期	17年上期	増減
その他 売上高	17	19	+2
その他 営業利益	▲3	▲2	+1



□その他
[増収・増益]

◆ユニチカ設備技術㈱
耐火スクリーンの不具合懸念に伴う是正工事は、99%進捗。労務費等が縮小し、前年同期に比べ赤字幅は縮小。

◆その他の関連会社は、好調に推移。

1. 2018年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析(予想修正後)
- ・セグメント別業績予想
- ・3つのGの実現~“Growth”に向けた主施策と“Global”展開

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

更なる飛躍に向け成長への基盤固めを行う

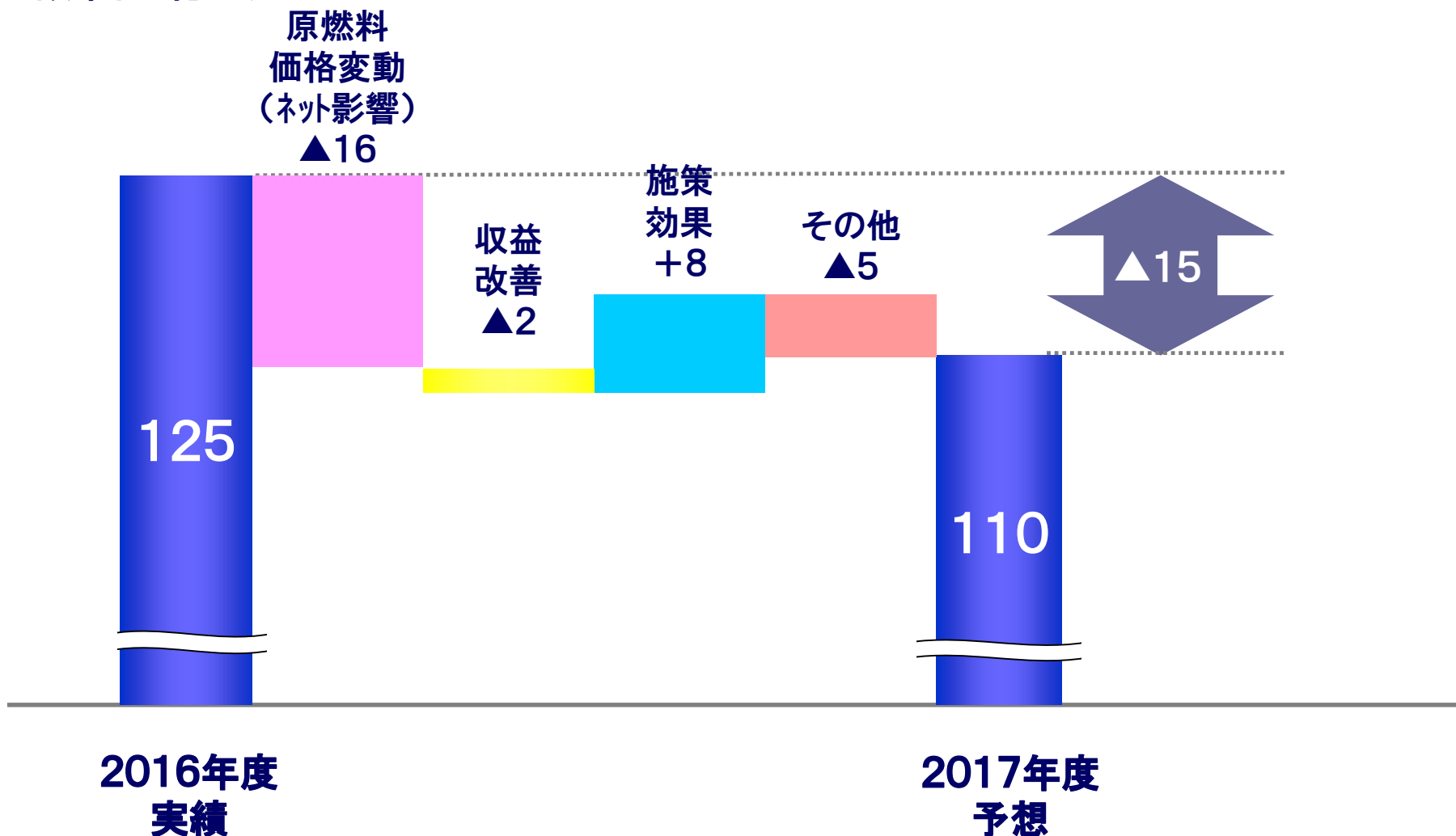
(金額単位:億円)	2016年度 通期実績	2017年度 通期予想	前期比 増減
売上高	1,262	1,310	+48
営業利益	125	110	▲15
経常利益	105	98	▲7
親会社株主に帰属する 当期純利益	74	75	+1

2017年度	下期前提
原油(\$/バレル)	55
為替(円/\$)	110

◆当社グループは、2017年度を初年度とする3カ年計画「“G” round 20 ~ to The Next Stage」を策定し、本中期経営計画に掲げる3つの“G”（Growth、Global、Governance）の実現に努め、更なる飛躍に向けた成長への基盤固めを行う。

営業利益変動要因分析(予想修正後)

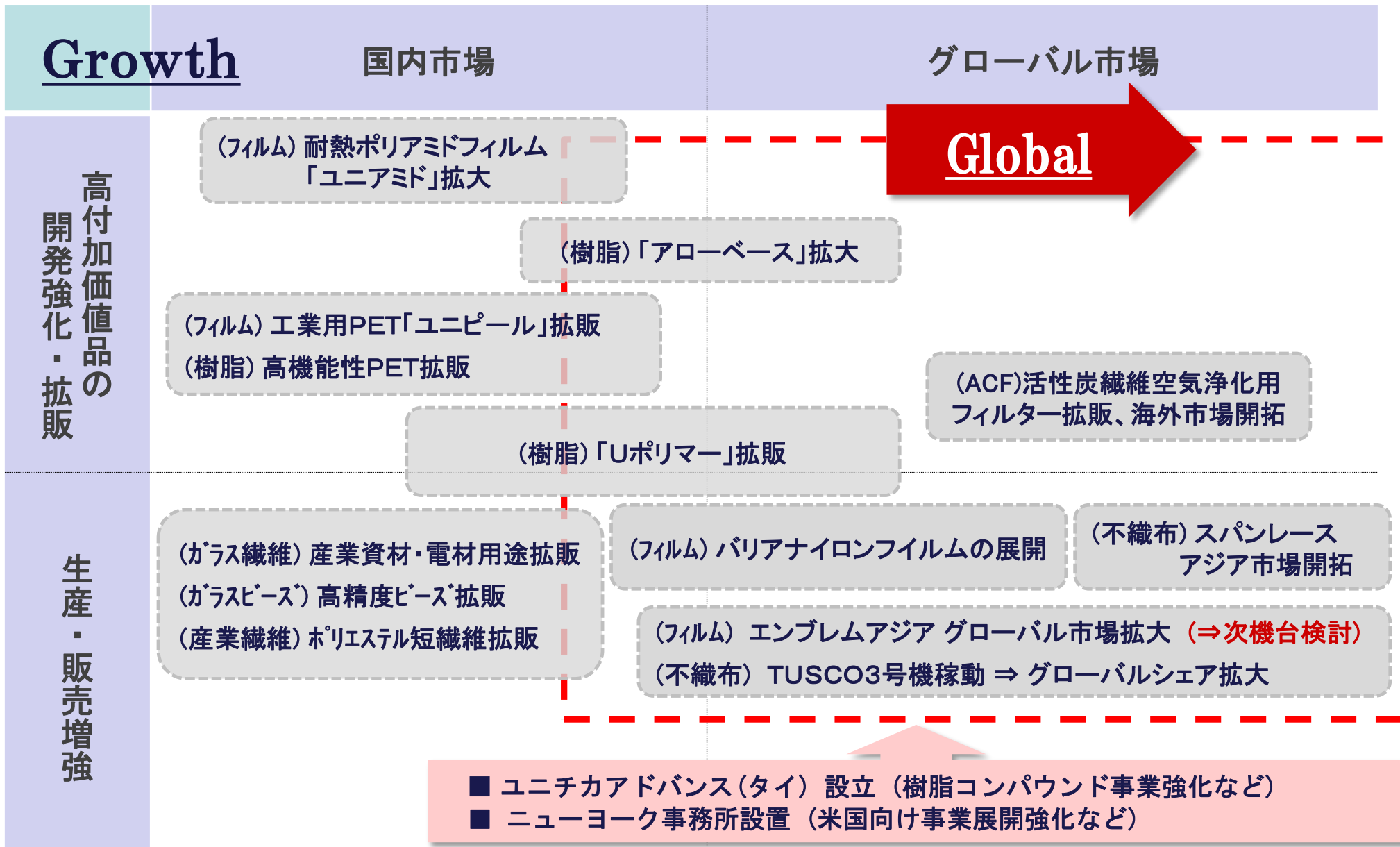
(金額単位:億円)



セグメント別業績予想

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な施策
	2016年度 通期実績	2017年度 通期予想	前期比 増減	2016年度 通期実績	2017年度 通期予想	前期比 増減	
高分子事業	551	600	+49	100	87	▲13	<p>包装フィルムは、原燃料価格や為替の変動に柔軟に対応し、シェアの維持に努めると共に、「エンブレムHG」など高付加価値品の拡販に注力。</p> <p>工業フィルムは、「ユニアミド」や「ユニピール」などの高付加価値品の拡販により収益強化。</p> <p>ナイロン樹脂は、ナノコンメタリックなど高付加価値品の海外拡販の強化。「Uポリマー」は、引き続き海外拡販や用途拡大を進め、生産能力を増強。</p> <p>不織布は、タスコでの生産能力増強を梃子にし、カーペット用途、自動車部品用途で拡販。</p>
機能材事業	121	125	+4	11	12	+1	<p>ガラス繊維は、提案型の営業活動による顧客深耕や新規案件の早期取り込みにより拡販。</p> <p>活性炭繊維は、フィルターの高性能化を更に進め、浄水器用途での拡販や海外での事業を開拓。</p>
繊維事業	555	560	+5	19	15	▲4	<p>産業繊維は、複合繊維など高付加価値品の比率を高め、収益体質を更に強化。</p> <p>衣料繊維は、原糸・原織開発に注力すると共に、海外サプライチェーンの活用を更に加速。</p>
その他	35	25	▲10	▲6	▲4	+2	耐火スクリーン是正対応の完了。
合計	1,262	1,310	+48	125	110	▲15	

3つのGの実現 ~ “Growth”に向けた主施策と“Global”展開



1. 2018年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析(修正後)
- ・セグメント別業績予想
- ・3つのGの実現～“Growth”に向けた主施策と“Global”展開

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

成長戦略（高分子セグメント）

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア製品のグローバル市場拡大		アジア市況の回復と生産性の向上にともない、売上高は1.1倍に拡大。	○
	バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の展開		惣菜やレトルトコーン向けなどに採用が拡大しており、売上高は2.0倍に拡大。	○
	耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の拡大		情報端末機器向けを中心に採用拡大しており、売上高は1.1倍に拡大。	○
	工業用PETフィルムの拡販		シリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」を国内外に拡販中。売上高は1.8倍に拡大。	○

成長戦略（高分子セグメント）

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
樹脂	「アローベース」の拡大		国内メーカー向け太陽電池用途の需要が減少。	△
	「Uポリマー」の拡販		情報端末機器用途に加え、海外向け自動車部品用途でも販売が拡大し、売上高は1.7倍※に拡大。	○
	高機能性PETの拡販		化粧品ボトル用途などの差別化アイテムの販売が増加し、売上高は1.6倍に拡大。	○

※：既存用途を含む

成長戦略（機能材、繊維セグメント）

	施策		進捗状況	評価
活性炭 繊維 (ACF)	空気浄化用フィルターの拡販による海外市場の開拓		中国を中心に自動車室内VOC除去フィルターの販売が堅調に推移。	○
ガラス 繊維	産業資材・電材用途(特殊クロス等)の拡販		電子材料分野のICクロスで超薄物タイプの販売が増加。	○
ガラス ビーズ	需要拡大が見込まれる高精度ガラスビーズの生産強化・拡販		新規にユーザーを獲得し、販売が拡大。	○
産業 繊維	新規商品の投入によるポリエステル繊維の拡販		ユーザー評価中。	△

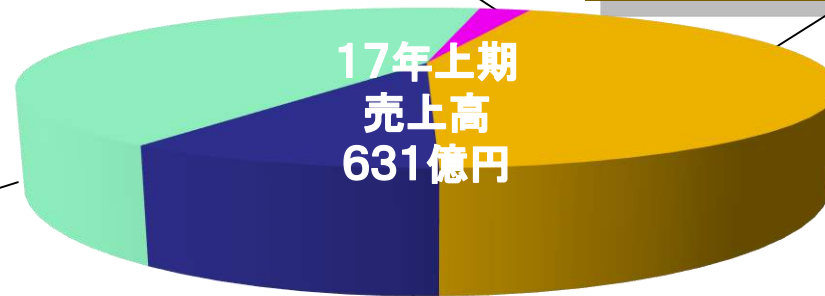
※シェアは当社推定

	製品	国内 シェア	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア 約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築、土木資材 農業資材、衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材、医療資材	天然素材のシート化技術
	ポリアリレート樹脂	当社 独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス(産業用)	20% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築 土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション

その他(売上高構成比 3%)

高分子事業(売上高構成比 45%)

- ◆フィルム ナイロンフィルム
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂
ポリエステル樹脂
ポリアリレート樹脂
- ◆不織布 ポリエステルспанボンド
спанレース



繊維事業(売上高構成比 42%)

- ◆産業繊維 ポリエステル高強力糸
ポリエステル短繊維 等
- ◆衣料繊維 ユニフォーム
一般・婦人衣料素材
スポーツ衣料素材 等

機能材事業(売上高構成比 10%)

- ◆ガラス繊維
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維

ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。